

はっくつ 2011

なぞの中世寺院発見か？

小野(おの)遺跡

室町時代



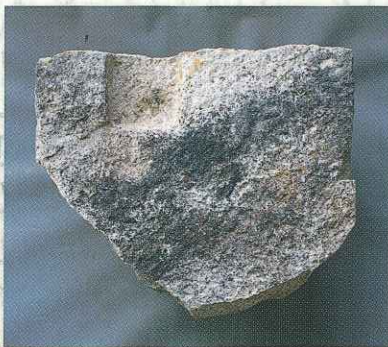
石積みで護岸された土坑
(手前左側に石造物が見える)



石組井戸から出土した木臼



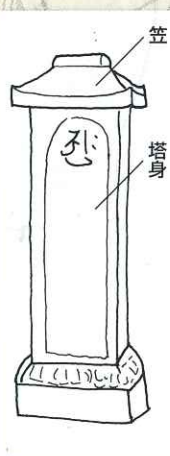
石造物の笠部



石造物の笠部の裏側



○ は現在の小野集落



笠塔婆模式図

栗東市の中央部に位置する小野の集落は、現在では、旧東海道に沿った所にありますが、これは江戸時代以降の話。室町時代には南東に1kmほど離れた、白鬚神社や小野寺(廃寺、後身は万年寺)の周辺にあったとされます。そして2011年度の発掘調査では、それを裏付ける室町時代の遺構が発見されました。

土坑は、南北4.8m、東西2.6m、深さ0.7mを測り、東西の肩部を石積みで護岸していますが、その石材に石造物が転用されていました。

この石造物は半分に割られていますが、幅約30cm、高さ15cmを測ります。建物の屋根のような反りを持ち、裏面には深さ1.8cmの長方形の窪みがあることから、石柱の上に乗った「笠」であり、墓地や寺院に見られる「笠塔婆」であった可能性があります。

また、近くで見つかった石組み井戸では、その底に泥や汚水の流入を防ぐために一般的に用いられた「曲げ物」ではなく、木製の臼を用いており、今回の調査地は、一般集落に比べて、特殊な遺構があった事が判明しました。

実は調査中に当地に寺院があったとの伝承を得ました。残念ながらお寺の名前は不明ですが、室町時代の小野の地に、広範囲に宗教施設が存在したことがうかがえます。

(藤岡)

弥生時代終末の周溝付建物と河川を確認

下鉤(しもまがり)遺跡

弥生時代後期～古墳時代初頭



周溝付建物(南東上空から)

下鉤遺跡は、伊勢遺跡とならんで弥生時代の大型掘立柱建物が存在する特殊な集落として滋賀県を代表する遺跡として知られています。

今年度に行われた苅原地区の調査では、大型掘立柱建物が確認された特殊な地区の北側に当たる調査と、2010年度に琴が出土した隣接地の調査が行われました。

2010年度の隣接地では、掘立柱建物3棟、土坑、溝、河川などが確認されました。2010年度に確認された河川の続きからは、多量の土器と木製品が出土し、土器のなかには、畿内、東海、日本海などの各地から運ばれてきた土器が多数含まれていました。

大型掘立柱建物が確認されている特殊地区の河川をはさんで北側の地区では、溝や柵で区画していたと思われる場所に、掘立柱建物や周溝付建物が確認されました。周溝付建物は、竪穴建物や掘立柱建物の周りに溝を廻らした建物で、栗東市では下鉤遺跡のほかに十里遺跡で確認されています。

(近藤)



河川、溝ほか(南東から)



河川出土弥生時代の甕

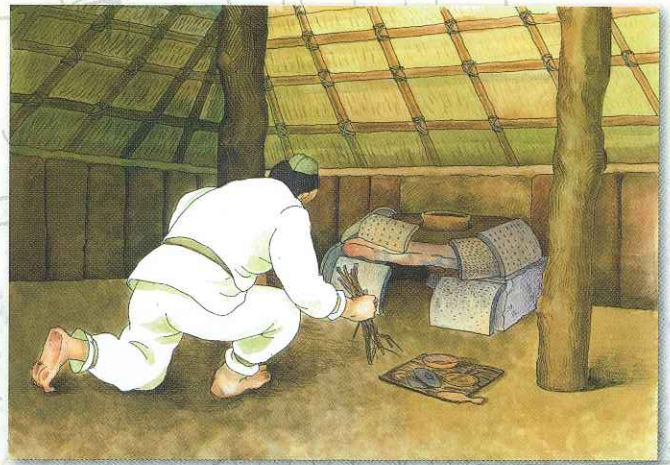
奈良時代の竪穴建物や人形を確認

手原(てはら)遺跡

奈良時代



竪穴建物 石をのせて撮影



石と瓦で組んだカマドの様子 (画: 清水 優)

手原遺跡は、白鳳寺院や官衙(役所)関連の遺跡として知られています。今回は、今年度の調査で最も注目された竪穴建物と人形を紹介します。

奈良時代の竪穴建物は市内では同じ手原遺跡出土例に次ぐ2例目の発見です。栗東市など琵琶湖南部地域では、飛鳥時代になると竪穴建物は小型化して奈良時代には造られなくなるので、この建物は通常の住居ではない何らかの用途を担っていたのでしょう。建物は、平面正方形で一辺3.2m、深さ25cm、直径と深さが40cmの支柱穴が4箇所にあります。建物主軸は正南北方位で、北辺中央にカマドが作られています。カマドは瓦と石で組み

た大変珍しい構造です。焚口左右に立てられた石の上に長さ77cmの石を鳥居状に載せていたと考えられ、さらに平瓦5枚を用いて構築、煙出しの煙突には丸瓦を利用していました。

人形は直径4.3m、深さ2.1mの井戸から出土。口縁を打ち欠いた細頸壺の中に脚を折られた状態で2体が納入されていました。長さ約16cm、厚さ4mmの杉材で作られ、眉目鼻口、あご鬚を墨書しています。人形は病気等の原因である罪穢れを移して水に流し去る祭具ですが、本例は壺に入れ井戸に落とし込んでいることから人形を封じ込める意図がうかがえます。

(佐伯)



人形(ひとがた)と壺

中世の井戸

下鈎(しもがり)遺跡

平安時代～鎌倉時代



井戸枠に利用された桶



井戸底から出土した木箱

下鈎遺跡は、弥生時代の中期後半期と後期後半期の中核的拠点集落として知られる遺跡ですが、今回の調査では、中世期の大小4基の井戸が見つかりました。

4基のうち2基は、一辺が2m程の正方形の掘方に、抱えるほどの大型の曲げ物の桶を井戸枠に使った井戸で、規模的にも構造的にもよく似た井戸でした。また、別の井戸の底からは、15×25cm程の木箱も出土しています。

井戸のほかにも、大きな区画溝や大小の柱穴や土坑などが見つかりましたが、建物は想定できませんでした。時代的には、全国的に荘園の発達と武士達の成長の時代平安時代末から鎌倉時代の初めにかけての13世紀前後といえそうです。(猿向)

縄(へそ)遺跡

平安時代～鎌倉時代



重なった土層の堆積



井戸跡から見つかった土器や木製品



置物包含層から出土する土器



井戸跡と用水路跡

縄遺跡は、大宝神社の西側一帯に中山道を中心として広がる中世期の遺跡として知られています。時代的には、まさに源氏・平家が争っていた12世紀から13世紀にかけてから始まり、時代とともに集落が西へ発展していく状況がうかがえます。

今回の調査でも、遺物包含層からは多くの土器が出土しており、多くの人々を支えて地域であったことがわかります。調査では、井戸を2基発見しました。そのうちひとつは、井戸そのものではなく、井戸の跡でした。ゴミ穴と利用されたためか多くの土器や木製品・木片が出土しました。実はその後、ゴミ穴の上に幅2～2.5m程の用水路が作られたため多くの木製品が残ったようです。(猿向)



滋賀県

りっとう
栗東市

はっくつ 2011—栗東市話題の発掘調査—

発行日 2012年3月31日

編集発行 財団法人栗東市体育協会

〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47番地

栗東市出土文化財センター内

Tel.077-553-3359 Fax.077-553-3514

印刷 株式会社スマイ印刷